

自立活動の部屋 ～かがやき☆自立活動通信～

令和元年12月23日



埼玉県立草加かがやき特別支援学校 自立活動専任



いよいよ明日から冬休みです。保護者の皆様のご理解・ご協力のおかげで自立活動の時間を中心に、子どもたちと楽しく学び合うことができました。ありがとうございました。来年も引き続き、一人ひとりの持ち味が発揮できるよう、保護者の皆さまや担任と協力・連携を図りながら支援・指導にあたらせていただきたいと思います。体調管理に気をつけてよいお年をお迎えください。

今回は、11月29日(金)に実施したかがやき保護者学習会の内容をお伝えします。子どもたちと話したり大人同士で話したりすることが難しい内容ですが、ご家庭で話し合うきっかけになればと思います。当日の資料が欲しい方は、連絡帳等で担任までお知らせ下さい。また、公共交通機関を使用してのご来校のご協力、ありがとうございました。

学校における性指導の実際～小・中・高等部での取り組みの一例～

草加かがやき特別支援学校における「性に関する指導」

二次性徴の発現
生殖機能の成熟
受精
妊娠
初経・月経
精通・射精
性行為
避妊
性感染症など

性行動に伴う危険を認識して回避する態度や望ましい人間関係を築く能力など、その前提となる教育を含む広義の概念

- +
- 清潔（手洗い、歯みがき等）
 - 身だしなみ
 - 排泄
 - 誕生日会
 - 友だちとの関わり方
 - 異性との関わり方
 - 食育
 - 安全
 - 男女の違い
 - 生命の大切さ
 - など



「性に関する指導の全体計画」を作成し、系統性を踏まえた性に関する指導に取り組んでいる。

保健体育における性分野の指導だけではなく、日常生活の指導や生活単元学習等も含め、**12年間の教育活動全体を通じて**、個々の児童生徒の発達段階や実態に応じて一斉指導と個別指導を系統的かつ効果的に行っている

性に関する指導は、思春期以前から考えよう～家庭と学校との連携～

参考・引用文献 『障がいのある人の性 支援ガイドブック』中央法規 坂爪真吾(2017)

○学校で教えられることには限りがある

- 「性に関する指導」はできることもあるが教える時間、場所、内容が限られてしまう

○家庭でしか具体的に教えてあげられないこと

- 入浴時における性器の洗い方 自慰行為の設定場所
- 女性用下着、生理用品の選び方、購入
- 精液や経血で汚してしまった下着の洗い方

○思春期以前から考えよう！

- 幼児期から性に関する指導の土壌を作っておく
- 男児の性器の洗い方は射精支援の一步→**子どもと一緒に入浴できるうちに**
- 繰り返し積み重ねることでルールを伝えていく
→排泄の仕方、人前でプライベートゾーンを見せない



卒業後の支援・相談の場

○担当のケースワーカーに相談

○地域の相談支援センター、基幹相談支援センター、就労支援センターに相談

- 企業就労者は在学中に就労支援センターに登録している
- 生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所の利用者は、卒業時にサービス利用計画書作成の計画相談において、相談支援センターとつながっている

○最近では、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)が各市の社会福祉協議会に配置されているところがある

性教育の流れと脳神経系の発達

参考文献・引用文献『ワークシートから始める特別支援教育のための性教育』

ジアース教育新社 松浦賢長(2018)

【身体性の発達】小1・2年くらい

- ・身体的感覚が育つ、身の回りのものに注意を向ける
- 具体物の理解 「あれはなに?」「これはなに?」



【関係性の発達】小3・4年くらい

- ・自分は関係の中で生きているという価値転換
- 「私は〇〇小学校の何年何組の1人」



【抽象性の発達】小5・6年くらい

- ・抽象的事項(いのち等)を理解し始める、状況を推測することができる
- 将来の自分の姿を描く、行動制御も少しずつできる
- 「恥ずかしい」という概念理解ができてくる



【社会性の発達】中学生くらい

- ・見ず知らずの人たちと生きる世界を描くことができる
- 他の学校のだれか、他の国のだれか等



「わたし」と周りとの広がり

○「恥ずかしい」が理解できるまで

例えば…どこでも脱いでしまう、裸になってしまう、恥ずかしいがわからない?

→「恥ずかしい」は高度な心身の協調であり、生まれつき身につくものではない

- ① 感覚が開発される
- ② 表情が豊かになる
- ③ 男女の区別を理解する
- ④ 隠すことを身につける
- ⑤ あいだの取り方を知る
- ⑥ 自分のからだと心を知る
- ⑦ 相手のからだと心を知る
- ⑧ 付き合いを知る
- ⑨ 可能性を知る
- ⑩ 将来を描く

① 身体性

行動を身につける段階

② 関係性

恥ずかしさを獲得する段階

③ 抽象性

周りと自分を考える段階

④ 社会性

- ① 身体性が発達する頃から「恥ずかしい」ことに関連する言葉かけを行う
- ③ 抽象性の理解を得た頃に、「隠す」ことだけが身につく
- ④ 第三者の目を理解できる社会性の頃に、「恥ずかしい」が身につく

○「恥ずかしい」という意識

☆理解の早い遅いには個人差があり、身につくまでに何千回も毎日声をかけることで身につく意識

☆児童生徒にあった声かけを統一して行うことが身につくことにつながる

☆家庭と学校、関係機関と連携することで意識づけることができる

☆「恥ずかしいから隠す」ではなく、「隠すから恥ずかしい」



「隠す」ことを教え、言葉で「(第三者が見ているから)恥ずかしい」と伝えることで「隠す行動」=「恥ずかしい」という心と身体の協調を身につける



水着で隠しているところは「他人に見せない」等具体的に伝えるのも有効です